

株主のみなさまへ

平成 17 年度 **中間報告書**

平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日



株主の皆様へ当社への御理解を一層深めていただくために、当社ホームページには様々な情報を掲載しております。社業を通じて持続可能な社会を実現することを基軸とした当社の姿勢と取り組みをまとめた「2005 社会・環境報告書（CSRレポート）」についてもこちらのホームページでご覧いただくことができます。



トップページのメニュー
「社会的責任・環境保全」から
お入りください。

<http://www.mhi.co.jp>

目次

- ごあいさつ 1
- 部門別の概況 4
- CSR（企業の社会的責任）推進について 5
- トピックス 6
- 工場見学会のお知らせ 9
- 連結中間決算の概要 10
- 単独中間決算の概要 12
- 会社の概要 13

●表紙の説明

コミュニケーション能力を持つロボットとして一般に販売した家庭用ロボット「wakamaru（ワカマル）」



ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別の御支援、御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。「株主のみなさまへ」をお手もとにお届けするに当たりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

当上半期における我が国経済は、個人消費が堅調に推移するとともに、好調な企業収益を反映し設備投資も高水準で推移した結果、全般としては概ね緩やかな景気回復基調にありました。また、輸出は、中国における現地生産能力の向上や景気の抑制策等の影響によりアジア向けの伸びがやや鈍化する傾向が見られるものの、依然として高い水準の伸びを示しています。

このような状況の下、当社グループは国内受注の確保に加え、海外で受注・販売活動を積極的に展開しました。その結果、当上半期においては、特に海外において、大型案件を相次いで成約したことに加え、中量製品の受注も増加するなどの成果を挙げました。まず、当社のエンジニアリング力が評価されドバイ向け全自動無人運転の都市交通システムを受注したほか、サウジアラビア向けに得意機種の大規模メタノールプラントを成約いたしました。また、主力製品であるガスタービンコンバインドサイクル火力発電プラントの商談が引き続き活発であり、チリ及び中国向け等を成約したほか、品質や納入実績が評価され、フランス原子力発電所向け取替用蒸気発生器

を初めて受注いたしました。さらに、中小型エンジン、フォークリフト及び過給機の受注が新型機種の投入効果や欧州の排ガス規制対応等の需要拡大により増加いたしました。国内においても、工作機械が自動車関連産業向けを中心に好調に推移しました。この結果、当上半期の連結受注高は前年同期を17%上回る1兆2,705億99百万円となりました。連結売上高は、船舶・海洋部門が前年同期と比べ船舶引渡隻数が少ないことにより減少したものの、機械・鉄構部門、原動機部門、中量産品部門及び航空・宇宙部門が増加したため、前年同期を約11%上回る1兆2,537億81百万円となりました。損益面では、近年の好調な受注状況を反映し



左 西岡会長 右 佃社長

て売上高が前年同期に比べ増加したほか、販売費及び一般管理費の削減やコスト低減を中心とした採算改善活動の推進により、営業利益は241億45百万円、経常利益は214億円となり、前年同期からそれぞれ282億44百万円、279億53百万円改善しました。この結果、中間純利益は149億8百万円となり、前年同期から364億33百万円改善しました。

なお、当上半期の単独業績は、受注高は9,416億99百万円、売上高は9,944億35百万円、営業利益は110億9百万円、経常利益は94億82百万円、中間純利益は79億84百万円となりました。

当年度の中間配当につきましては、中間純利益の水準並びに今後なお、厳しい事業環境が続く状況であることを勘案して、実施を見送ることとさせていただきます。株主の皆様には誠に申し訳なく存じますが、事情御賢察の上、何卒御了承賜りますようお願い申し上げます。

今後の我が国経済は、設備投資及び輸出の伸びはやや鈍るものの、当面堅調に推移するものと思われませんが、依然として公共投資の減少が見込まれるほか、米国の利上げ及び中国の景気抑制政策に伴う経済成長率の低下による世界経済の鈍化や原油価格の高止まりによる企業収益への悪影響も懸念され、先行きは必ずしも楽観を許さない状況にあります。

このような経営環境の下、当社グループといったしましては、引き続き収益力の回復を緊急

かつ最大の課題ととらえ、当年度より、損益改善のための全社緊急活動「アクション05」を強力に推進しております。本活動では、ものづくりの基盤となる生産プロセスを徹底的に改善することを全社にわたり展開しております。また、製品事業競争力の強化を図るべく、個々の事業の強化策に継続して取り組むとともに、伸長事業に対しては生産能力増強のための積極的な設備投資を引き続き行ってまいります。さらに、企業体質の強化については、設計標準化・部品共通化の推進、品質・信頼性の向上活動、CS（顧客満足）活動等を通じて、営業・設計・生産技術からアフターサービスに至るまでの広い意味での「ものづくり力」強化への取り組みを加速してまいります。

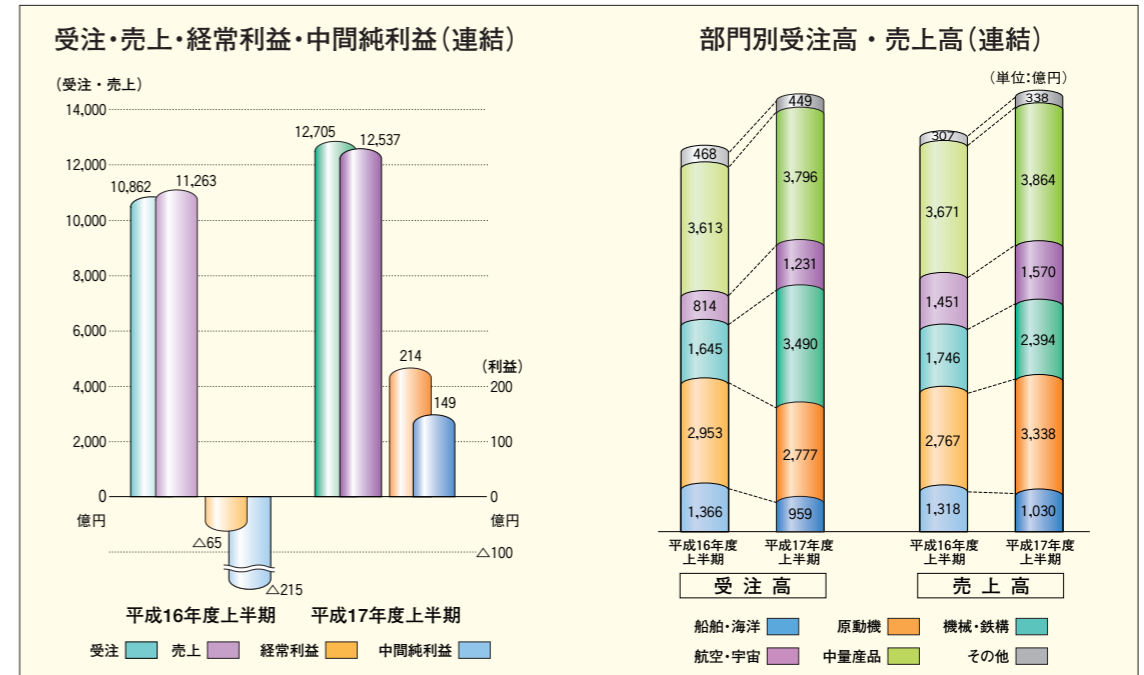
最後に、当社は、国土交通省及び日本道路公団発注の鋼鉄製橋梁工事に関し、独占禁止法に違反する行為があったとして、それぞれ本年6月及び8月に東京高等裁判所に起訴されました。さらに、本年9月には前述の工事に関し公正取引委員会から排除勧告を受けるに至りました。本件につきましては、株主の皆様にご多大な御心配をお掛けし、誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。

当社は、従来からコンプライアンスの徹底を強く指導していたにもかかわらず、かかる事態に至ったことを真摯かつ厳粛に受け止め、再発防止策として本年8月には官公需事業適正化に向け、その活動状況を全社的にモニタ

リング・改善指導するため、「受注適正化委員会」を設置しました。また、官公需営業部門向けの行動指針の策定、独占禁止法遵守マニュアルの拡充を行い、社員一人一人に至るまで教育・管理を徹底的に行っております。これら再発防止策と、本年7月に設置した「内部監査室」による内部監査機能の強化により、従来にも増して適正に事業を遂行し、早期の信頼回復に努めてまいり所存ですので、株主の皆様におかれましても、何卒御理解の程、よろしくようお願い申し上げます。

なお、公正取引委員会からの上記の排除勧告につきましては、問題とされた行為の終了時期に関し認識の違いがあることから、この点につき、審判の場で改めて確認してゆくことといたしましたので、併せて御報告申し上げます。

取締役会長 **西岡 喬**
 取締役社長 **佃 和夫**



部門別の概況

船舶・海洋部門

堅調な海運市況を背景に新造船需要が引き続き高水準で推移する中、得意とする高付加価値船を中心に幅広い受注活動を展開した結果、LNG船、コンテナ船等を成約することができましたが、連結受注高は多数の成約があった前年同期を下回る959億84百万円となりました。

連結売上高は、船舶引渡隻数の減少等により、前年同期を下回る1,030億23百万円となりました。

原動機部門

国内では、既納プラントの改良・改造・修理工事が増加したものの、新規大型発電プラントの受注がなく、前年同期を下回りました。海外でも、需要が堅調な中南米及びアジア等でガスタービンコンバインドサイクル火力発電プラントを成約したほか、フランス原子力発電所向け代替用蒸気発生器を初めて受注するなどしましたが、前年同期には及ばず、部門全体の連結受注高は2,777億96百万円となり大型案件の受注が相次いだ前年同期を下回りました。

連結売上高は、火力発電プラント工事的増加等により、前年同期を上回る3,338億99百万円となりました。

機械・鉄構部門

機械関係は、海外でドバイ向け都市交通システム及びサウジアラビア向け化学プラント等を受注したため、連結受注高は前年同期を大幅に上回りました。一方、鉄構関係は、海外ではLNGの大型貯蔵タンク及び文化・スポーツ・レジャー関連施設の大型案件を受注したものの、国内で橋梁が減少したため、連結受注高は前年同期を下回りました。

以上の結果、部門全体の連結受注高は前年同期を上回る3,490億49百万円となりました。

連結売上高は、化学プラント等の売上増加により、前年同期を上回る2,394億31百万円となりました。

航空・宇宙部門

民間機関係は、民間輸送機B787(主翼)を新規に受注したほか、ビジネスジェット機グローバルエクスプレス(主翼等)も増加したため、前年同期を上回りました。防衛関係も、地对空誘導弾ペトリオット用部品が増加したため、前年同期を上回りました。この結果、部門全体の連結受注高は1,231億52百万円となり前年同期を大幅に上回りました。

連結売上高は民間輸送機の引渡機数増加等により、前年同期を上回る1,570億76百万円となりました。

中量産品部門

汎用機・特殊車両関係は、国内外の景気回復に伴い引き続き需要が拡大する中、米国向けを中心に発電用及び産業用等の中小型エンジンが好調であったほか、フォークリフトが伸長し、欧州では過給機も増加したため、連結受注高は1,734億86百万円、連結売上高は1,885億91百万円となり、それぞれ前年同期を上回りました。

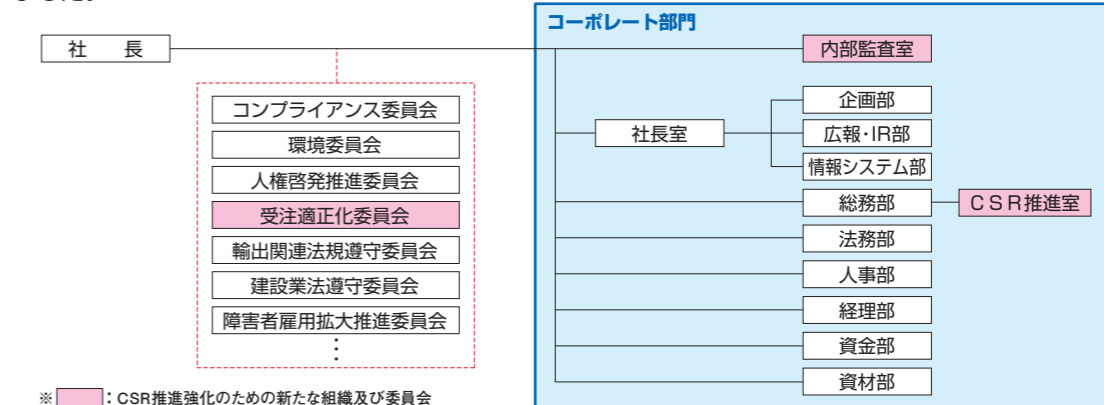
冷熱関係は、国内で自動車販売及び買い替え需要の増加に伴いカーエアコン及びパッケージエアコンが好調であったほか、海外でも欧州向けを中心にルームエアコンが引き続き堅調であったため、連結受注高は1,042億18百万円、連結売上高は1,025億11百万円となり、それぞれ前年同期を上回りました。

産業機械関係は、国内外でオフセット枚葉機が伸長し、工作機械も国内の自動車関連産業向けが好調でしたが、製紙機械及び押出成形機の商談が相次いで繰り延べとなったほか、国内の需要が一巡した新聞用オフセット輪転機も減少したため、連結受注高は1,019億93百万円、連結売上高は953億78百万円となり、それぞれ前年同期を下回りました。

CSR(企業の社会的責任)推進について

CSRの更なる推進

当社は、CSRを経営の基軸に据えて事業活動を行っており、そのために、環境保全、人権、コンプライアンス徹底等を推進する各種委員会を設け様々な施策を実行しております。また、平成16年9月、環境・労働・人権などに関する諸問題の解決を目的とした国連グローバルコンパクトに参加いたしました。さらに、平成17年7月には、各種委員会・関連部署間の連絡調整や情報共有を図り、全社的なCSR経営方針の立案と展開を推進していく専門組織として「CSR推進室」を新設いたしました。



※橋梁独占禁止法違反被疑事件に係る再発防止策について

当社は、今後より一層厳しく自律して事業活動を行っていくために、次のとおり再発防止策を立案し、早期の信頼回復に向けて上記「CSR推進室」と「内部監査室」の活動と併せ、全力を挙げて取り組んでおります。

<再発防止策>

- ・独占禁止法の遵守の誓約
- ・受注適正化活動の推進
- ・コンプライアンス教育の徹底
- ・官公需営業担当者の定期的異動の実施
- ・官公需受注案件の総点検
- ・社外有識者による受注適正化活動のモニタリング
- ・独占禁止法教育の強化
- ・官公庁等OBである顧問、囑託に対する業務範囲の明確化と透明性確保

トピックス

マントルにまで及ぶ掘削調査で地球を解剖する世界初の探査船 地球深部探査船「ちきゅう」

世界が注目する「統合国際深海掘削計画（IODP）」がスタートしています。この計画の切り札として、2007年秋から計画への参加が予定されている海洋研究開発機構の「ちきゅう」には、当社の幅広い技術が大いに活かされています。



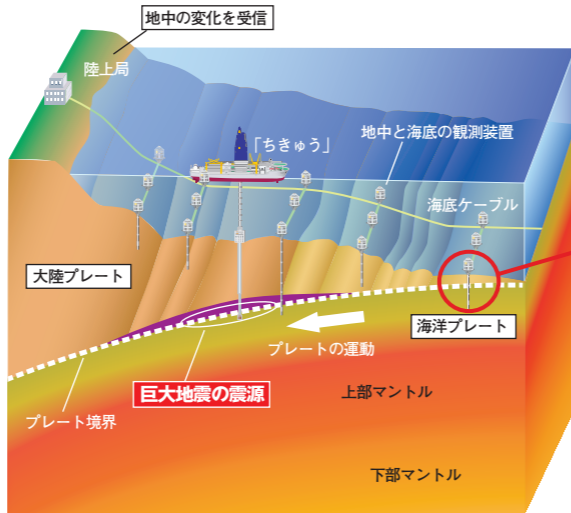
地球深部探査船「ちきゅう」の役割

■巨大地震発生の謎を解き、防災システムに貢献

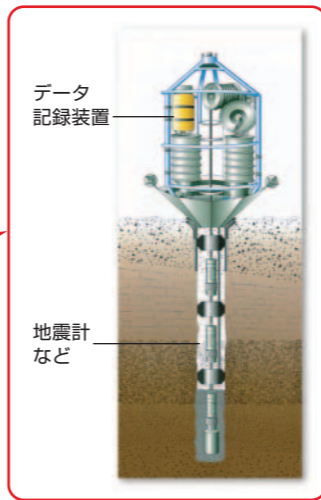
水深2,500mの海底から深さ7,000mまで掘削する機能を持った「ちきゅう」は、巨大地震の震源域であるプレート境界まで掘削し、そこを直接観察することで、地震発生のメカニズムを解明します。また、掘削孔と海底にじかに観測装置を設置することで、地震発生の情報を素早く伝える防災システム構築に貢献します。

■地球規模の環境変動予測や地殻内の微生物の研究

マントルの動きは海流や気候などの地表の環境に大きな影響を与えています。また地中の微生物活動の産物であるメタンハイドレートは、新しいエネルギー源として脚光を浴びています。地球規模の環境問題が人類共通の課題となった今、地球深部の研究が持つ意味はますます大きくなっています。



巨大地震の観測システム概念図



観測装置拡大図

資料提供：独立行政法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC)

地球深部探査船「ちきゅう」のしくみ 海底深部での安定採掘を可能にした技術

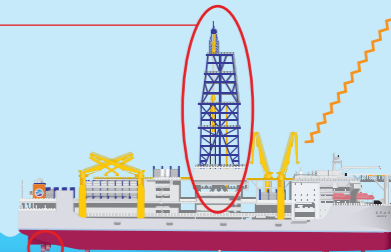
デリック

長い掘削用ドリルパイプを吊り下げる



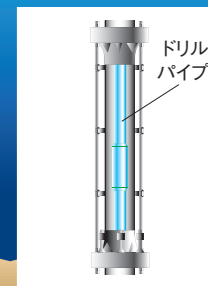
船位保持システム (DPS)

衛星からの位置情報に、風・潮・波などの測定を加味して船の位置を保つ



ライザーパイプ

船と海底をつなぐパイプ



アシマススラスト

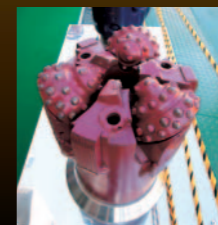
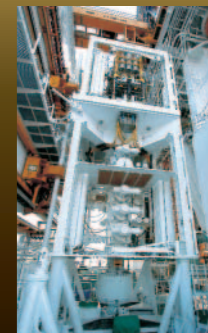
水平方向に360度回転する船位保持の動力



海底 2,500m

噴出防止装置 (BOP)

石油やガスなどの突然の噴出を防ぐ



ドリルビット

地層を掘る道具

海底下約7,000m

全長約10,000mのドリルパイプをつなげて、海底下約7,000mまで掘り進みます。

上部マントル

トピックス

「人とロボットの共存する時代」へ ～世界初の本格的な家庭用ロボット発売～

本年9月、東京23区内在住の方を対象に、家庭用ロボットwakamaruの一般販売がスタートしました(限定100台)。そのかわいいボディには、人と違和感なく「話す&聞く」ことのできるコミュニケーション能力と、制御・遠隔操作・軽量化・視覚技術など、当社の先端技術が凝縮されています。一般販売



に向けて、あらゆる面で安全性を確保するとともにメンテナンスなど販売後のバックアップ体制も整えております。ロボットが家庭の中で人に寄り添う存在となる新しい時代の幕開けが期待されています。

※お問い合わせ先：
☎0120-17-00-86
または www.wakamaru.net

三菱みなとみらい技術館 リニューアル

本年9月、「海洋ゾーン」では、従来の有人潜水調査船「しんかい6500」の展示に、新たに地球深部探査船「ちきゅう」と深海巡航探査機「うらしま」のコーナーを加え、リニューアルオープンしました。各コーナーにはシミュレーターゲームなども用意して、来館者が参加・体験できる展示空間となっています。また、迫力ある立体映像を楽しめる「3D映像シアター」も新設しました。現在上映しているアニメーションとCGを融合した『<時空間クルーズ>未来からのホットライン』では、深海から宇宙までの冒険物語をお楽しみいただけます。

※御来場の際には、裏表紙左下の三菱みなとみらい技術館御招待券(有効期限平成18年3月31日)を是非御利用ください。



深海巡航探査機「うらしま」



3D映像シアター

工場見学会のお知らせ

第2回工場見学会は、去る8月26日当社名古屋航空宇宙システム製作所にて夏空のもと無事に開催することができました。御好評につき、第3回工場見学会を下記のとおり開催いたしますので、多くの皆様の御応募をお待ちしております。

見学会概要

- ・見学場所 **神戸造船所**(兵庫県)
本年創業100周年を迎えた当造船所では、大型コンテナ船を始めとする船舶、原子力発電プラントやディーゼルエンジンといった原動機その他、高速道路料金システム、家庭用ロボットwakamaru等も製作しております。
- ・実施日時 平成18年3月24日(金) 13:00~17:00
- ・対象者 当社株主の方(同伴者1名様まで可)
- ・集合・解散 神戸造船所本工場
(最寄駅:神戸市営地下鉄海岸線 和田岬駅)
- ・参加費 無料(ただし、集合・解散場所までの往復交通費は各自の御負担とさせていただきます。)



神戸造船所

応募要領

- ・応募方法 右記のとおり官製はがきに必要な事項を御記入の上、御応募ください。
- ・締切日 平成17年12月31日(土)(当日消印有効)
- ・募集人数 80名様(同伴者を含む)

※お申し込み多数の場合は、抽選とさせていただきます。
厳正な抽選の上、当選発表につきましては当選者への御連絡(1月中旬発送予定)をもって代えさせていただきます。

※御応募により当社が取得する個人情報は、本工場見学会を実施する上で必要な限りにおいてのみ使用いたします。

お問い合わせ先

三菱重工業株式会社 総務部 文書・管財課
電話番号: 03-6716-3111(大代表)
8:45~17:30(土・日、祝祭日を除く)

官製はがき 50円切手 1088215 三菱重工業(株) 総務部 文書・管財課 工場見学会係行	東京都港区港南 二丁目16番5号
--	---------------------

宛名面

裏面

- 郵便番号
- 住所
- 電話番号
- 氏名
(ふりがなを御記入ください。)
- 性別
- 年齢
- 同伴者の氏名、性別、年齢
(お一人で御参加の場合は不要です。)

連結中間決算の概要

中間連結貸借対照表の要旨

(単位：億円)

資産の部	平成17年度 中間期末	平成16年度末	負債、少数株主持分 及び資本の部	平成17年度 中間期末	平成16年度末
	(平成17年9月30日現在)	(平成17年3月31日現在)		(平成17年9月30日現在)	(平成17年3月31日現在)
流動資産	24,722	24,656	流動負債	15,882	15,679
現金預金	2,002	2,119	買入債務	6,125	6,491
売上債権	9,543	10,488	短期借入金	3,835	3,566
有価証券	16	25	前受金	4,041	3,634
たな卸資産	10,563	9,585	その他流動負債	1,878	1,987
その他流動資産	2,595	2,437	固定負債	9,668	9,379
固定資産	14,957	13,654	長期借入金	5,431	5,694
有形固定資産	7,416	7,365	その他固定負債	4,237	3,685
無形固定資産	327	337	負債合計	25,550	25,059
投資その他の資産	7,213	5,952	少数株主持分	177	152
投資有価証券	6,672	5,387	資本金	2,656	2,656
その他	541	564	資本剰余金	2,038	2,038
資産合計	39,679	38,311	利益剰余金	7,435	7,412
			その他有価証券評価差額金	1,913	1,104
			為替換算調整勘定	△41	△60
			自己株式	△51	△51
			資本合計	13,950	13,099
			負債、少数株主持分及び資本合計	39,679	38,311

(注) 有形固定資産の減価償却累計額 (平成17年度中間期末) 15,033億円 (平成16年度末) 14,824億円

資産合計

平成17年度中間期の資産合計は、売上債権が減少したものの、主として下半期に向けて引渡し工事が多くなることによるたな卸し資産の増加と、株価上昇に伴う投資有価証券の増加により平成16年度末に比べて増加しました。

負債合計

平成17年度中間期の負債合計は、買入債務が減少したものの、主として前受金、その他固定負債の増加により平成16年度末に比べて増加しました。

資本合計

平成17年度中間期の資本合計は、利益剰余金の増加と株価上昇に伴うその他有価証券評価差額金の増加により平成16年度末に比べて増加しました。

中間連結損益計算書の要旨

(単位：億円)

	平成17年度 中間期	平成16年度 中間期
	(平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	(平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)
売上高	12,537	11,263
営業費用	12,296	11,304
●営業利益 (△は損失)	241	△40
営業外収益	121	116
営業外費用	149	140
●経常利益 (△は損失)	214	△65
特別利益	—	19
特別損失	—	207
税金等調整前中間純利益 (△は損失)	214	△253
法人税等	54	△41
少数株主利益	10	3
●中間純利益 (△は損失)	149	△215

(注) 1株当たり中間純利益 (△は損失) (平成17年度中間期) 4円44銭 (平成16年度中間期) △6円40銭

営業利益・経常利益

平成17年度中間期の営業利益・経常利益が平成16年度中間期に比べて増加したのは、主として売上の増加や販売費・一般管理費の減少とコスト低減を中心とした採算改善活動の推進によるものです。

中間純利益

平成17年度中間純利益が平成16年度中間期に比べて増加したのは、営業利益・経常利益の増加に加え特別損失の計上がないことによるものです。

中間連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：億円)

	平成17年度 中間期	平成16年度 中間期
	(平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	(平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)
●営業活動によるキャッシュ・フロー	782	1,506
●投資活動によるキャッシュ・フロー	△477	△845
●財務活動によるキャッシュ・フロー	△479	916
現金及び現金同等物に係る換算差額	14	4
現金及び現金同等物の増減額	△158	1,582
現金及び現金同等物の期首残高	1,897	1,847
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	28	5
現金及び現金同等物の期末残高	1,767	3,435

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益は増加しましたが、売上規模の拡大に伴う運転資金の増加等により平成16年度中間期比723億円減少の782億円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、三菱自動車工業(株)の増資引き受けを実施した平成16年度中間期より投資有価証券の支出が減少したことなどにより平成16年度中間期比368億円支出が減少し△477億円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の償還を行ったことなどにより△479億円となりました。

単独中間決算の概要

中間貸借対照表の要旨

(単位：億円)

資産の部	平成17年度 中間期末	平成16年度末	負債及び資本の部	平成17年度 中間期末	平成16年度末
	(平成17年9月30日現在)	(平成17年3月31日現在)		(平成17年9月30日現在)	(平成17年3月31日現在)
流動資産	20,794	21,187	流動負債	13,033	13,068
現金預金	1,233	1,429	買入債務	5,405	5,939
売上債権	8,342	9,267	短期借入金	2,594	2,253
たな卸資産	8,867	8,220	前受金	3,745	3,457
繰延税金資産	487	506	その他流動負債	1,287	1,417
その他流動資産	1,863	1,764	固定負債	8,451	8,343
固定資産	12,843	11,700	社債	2,100	2,100
有形固定資産	5,690	5,697	長期借入金	4,833	5,254
建物	2,027	2,045	繰延税金負債	788	273
その他有形固定資産	3,663	3,652	その他固定負債	729	715
無形固定資産	176	195	負債合計	21,485	21,412
投資その他の資産	6,976	5,807	資本金	2,656	2,656
投資有価証券	6,397	5,122	資本剰余金	2,035	2,035
その他投資等	578	685	利益剰余金	5,703	5,757
			その他有価証券評価差額金	1,810	1,078
			自己株式	△51	△51
資産合計	33,637	32,888	資本合計	12,152	11,475
			負債及び資本合計	33,637	32,888

(平成17年度中間期末) (平成16年度末)

(注) 有形固定資産の減価償却累計額 12,797億円 12,730億円

中間損益計算書の要旨

(単位：億円)

	平成17年度 中間期	平成16年度 中間期
	(平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	(平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)
売上高	9,944	9,079
営業費用	9,834	9,200
営業利益 (△は損失)	110	△121
営業外収益	114	93
営業外費用	129	101
経常利益 (△は損失)	94	△129
特別利益	—	25
特別損失	—	150
税引前中間純利益 (△は損失)	94	△255
法人税、住民税及び事業税	△17	△4
法人税等調整額	32	△77
中間純利益 (△は損失)	79	△173
前年度繰越利益	146	373
中間未処分利益	225	200

(平成17年度中間期) (平成16年度中間期)

(注) 1株当たり中間純利益 2円38銭 △5円15銭 (△は損失)

会社の概要

概要

社名	三菱重工業株式会社	資本金	265,608百万円 (平成17年9月30日現在)
本社	東京都港区港南二丁目16番5号 〒108-8215 ☎03-6716-3111	従業員数	33,254名 (同上)
創立	明治17年7月7日	ホームページ	http://www.mhi.co.jp
設立	昭和25年1月11日		

役員

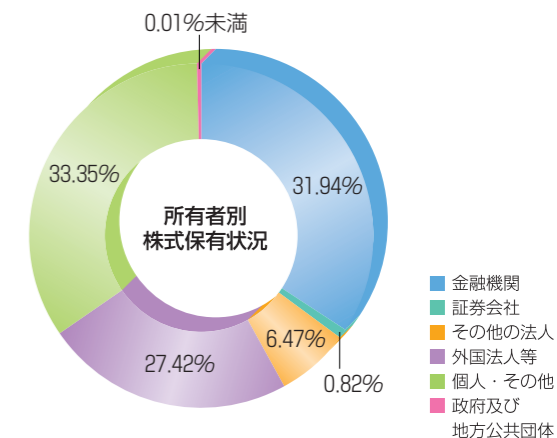
(平成17年9月30日現在)

取締役会長	西岡 喬	監査役	岸 暁
取締役社長	佃 和夫	監査役	中野豊士
取締役副社長執行役員	前沢淳一	監査役	野村吉三郎
取締役常務執行役員	太田一紀	監査役(常勤)	富田敏徳
取締役常務執行役員	松浦重治	監査役(常勤)	稲熊豊彦
取締役常務執行役員	永田育郎		
取締役常務執行役員	浦谷良美	執行役員	富川史雄
取締役常務執行役員	高岡力	執行役員	内田進
取締役常務執行役員	江川豪雄	執行役員	松岡利行
取締役常務執行役員	福江一郎	執行役員	宮首昭彦
取締役常務執行役員	戸田信雄	執行役員	山田陽二
取締役常務執行役員	菅 宏	執行役員	安田勝彦
取締役常務執行役員	大宮英明	執行役員	和木坂史生
取締役	佐々木幹夫	執行役員	井上裕
取締役	和田明広	執行役員	飯島史郎
取締役執行役員	青木素直	執行役員	渡部健
取締役執行役員	吉田雄彦	執行役員	澤 明

株式の状況

(平成17年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	6,000,000,000株
発行済株式総数	3,373,647,813株
株主数	311,665名



株主メモ

- 決算期 …… 3月31日
- 定時株主総会
開催期 …… 6月下旬
- 基準日 …… 定時株主総会議決権行使株主確定日
3月31日
利益配当金支払株主確定日
3月31日
中間配当金支払株主確定日
9月30日
その他の基準日
上記のほか必要ある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定
- 公告掲載新聞 …… 日本経済新聞
- 決算公告 …… 貸借対照表及び損益計算書を、次のウェブサイトに於いて公示しております。
http://www.mhi.co.jp/index_kabu/bspl.html
- 1単元の株式数 …… 1,000株
- 名義書換代理人 …… 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 名義書換取扱場所 …… 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(連絡先)
東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)
- 名義書換取次所 …… 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
*当社名義書換代理人は、平成17年10月1日付の三菱信託銀行株式会社とUFJ信託銀行株式会社との合併に伴い、三菱UFJ信託銀行株式会社となりました。

株式についての各種手続き

名義書換、住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求・買増請求*及び相続の各種手続きは、上記名義書換取扱場所及び名義書換取次所において取り扱っております。
なお、各種お手続きに必要な用紙については、以下の電話番号からも御請求いただけます。

専用のフリーダイヤル **0120-86-4490** (24時間・音声自動応答)

*単元未満株式の買増請求は、9月30日及び3月31日から起算してそれぞれ12営業日前から当該日までの間は、お取扱いができませんので、御留意ください。



三菱みなとみらい技術館への御招待

「三菱みなとみらい技術館」は、明日を担う青少年たちが「科学技術」に触れ、夢を膨らませる場になることを願い1994年6月に開設したものです。環境・宇宙・海洋・建設・エネルギー・身近な技術をテーマに、普段触れる機会の少ない最先端の科学技術を楽しみながら学んでいただけるよう、来館者参加型の展示となっております。

所在地：横浜市西区みなとみらい三丁目3番1号
三菱重工横浜ビル内

アクセス：JR線/横浜市営地下鉄「桜木町駅」より徒歩8分
みなとみらい線「みなとみらい駅」
けやき通り口より徒歩3分

休館日：毎週月曜日（但し、月曜日が祝日の場合は翌日）
年末年始及び特定休館日（2月20日～24日）

お問い合わせ先：TEL 045-224-9031

ホームページ：<http://www.mhi.co.jp/museum/>



三菱みなとみらい技術館御招待券
有効期限：平成17年9月31日
本券を御用ください。
(同伴者も同様まで有効)

見本



R70

70%再生紙使用



大豆油インキ使用